



# Singapore International Water Week

## 政府主導による世界的な情報交換の場

(一財)自治体国際化協会シンガポール事務所 所長補佐 杉田 かおり (東京都派遣) 倉田 模葉 (仙台市派遣)

### 弱みを強みに変えるシンガポール

シンガポールはその国土の狭さのため保水力に乏しく、建国当初から水資源の確保が課題であり、マレーシアから水を輸入すると同時に、水の完全自給に向け、再生水の活用や海水淡水化に取り組んできました。現在、シンガポール政府は水資源開発への取り組みを通じた最先端の水関連産業の集積を活かして、世界的な水関連技術の拠点としての地位を確立し、自国の競争力強化につなげようとしています。

Singapore International Water Week (SIWW) は、そのための取り組みの一環として 2008 年から開催されており、今年で 10 回目を迎えました。各種会議や発表、商談会、見本市が一斉に開催され、125 以上の国や地域から 2 万 1,000 人以上の参加者や 1,000 以上の企業が集まる世界的な情報交換の場となっています。今年もマサゴス・ザルキフリ環境・水資源大臣が参加するなど、シンガポール政府がいかに力を入れているかがうかがえました。

### 水を取り巻く厳しい環境が課題

今年の SIWW では、多くの講演者が世界の水を取り

巻く環境の深刻さについて言及しました。潘基文前国連事務総長は、インドや南アフリカを例に挙げながら、水不足が史上最悪の状態を迎えているとし、イノベーションと人々の連携を通して課題を解決していくことを呼びかけました。世界銀行 CEO のクリスタリナ・ゲオルギエヴァ氏は、多くの都市でインフラ整備が人口増に追いついておらず、各国政府は水の供給を含めたインフラ投資を民間企業に呼びかけるべきであると述べました。また、スリランカのラニル・ウィクラマシンハ首相は、スリランカでは異常気象による洪水と土砂崩れの被害が増大していることを紹介しました。

### 日本の自治体も参加

日本からは、水関連企業に加えて東京都水道局と横浜市水道局もスピーカーとして参加しました。東京都は水運用センターにおける総合的な水運用による安定的な水供給と事故などへの迅速な対応について、また横浜市は災害時の水供給に関する市民の意識向上に向けた取り組みについて紹介し、参加者は熱心に耳を傾けていました。水分野について豊富な経験を有する日本の地方自治体には、国際社会からの高い関心と期待が寄せられています。



展示会では JETRO がジャパンパビリオンを設置



日本の地方自治体による発表